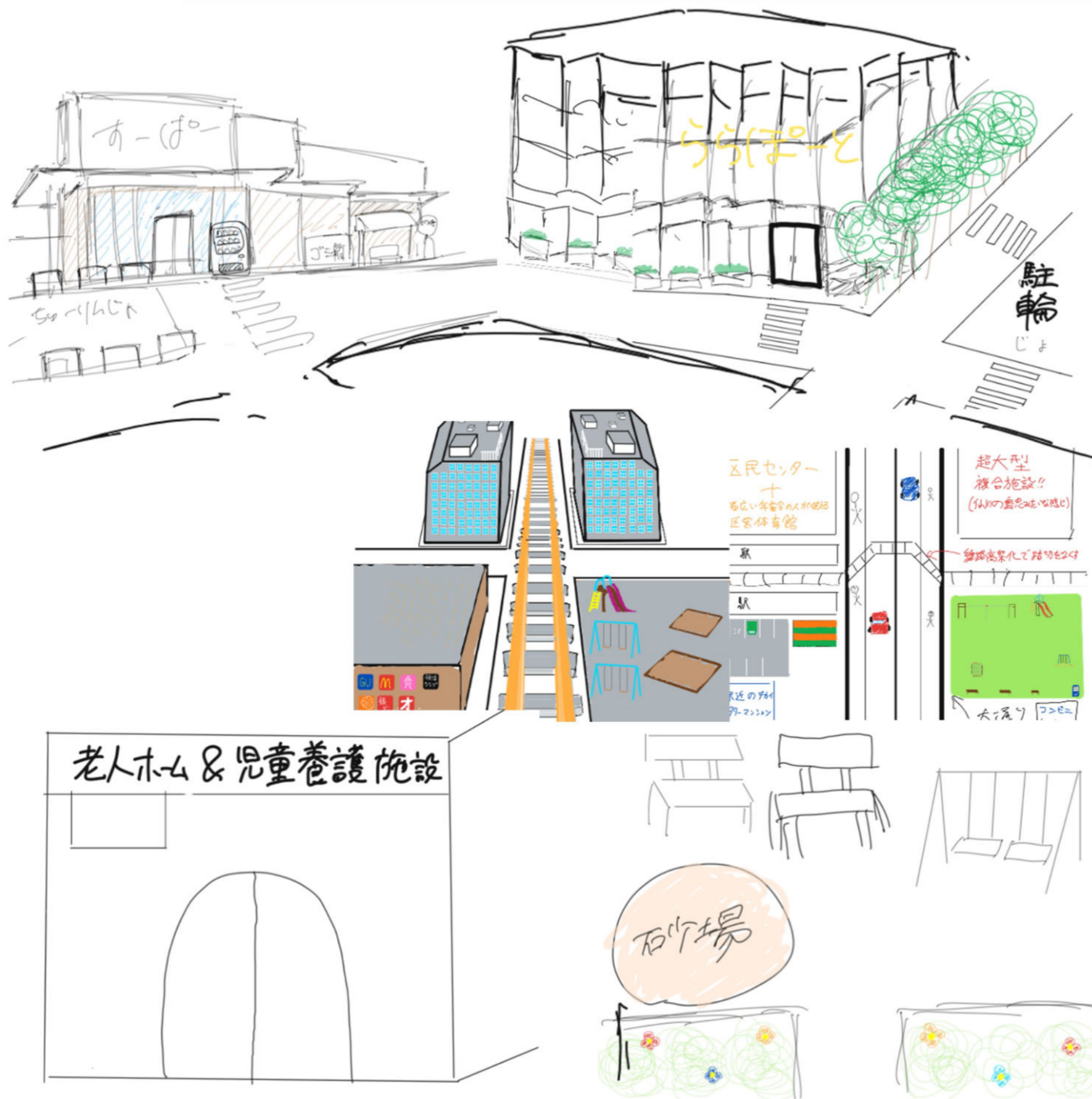




ちとからのこれから Title: 住む・遊ぶ・働くがバランスよく融合した、若者にも高齢者にも愛される魅力的な街



● 若者で賑わう、おしゃれで活気のある街に

現在の千歳烏山 都心へのアクセスも良く、静かで住みやすい住宅街
 全ての電車が停まる便利な駅という利点が十分に活かされていないと感じる

もっと多くの若者が集まるような「新しい魅力」も、これから生まれてほしい!

渋谷や下北沢のような駅前の開発をヒントに

駅の近くに大型の商業施設やイベントスペースをつくり、ファッション・音楽・カフェなど、若者が惹かれるトレンドやカルチャーが自然に生まれる環境を整える
 映画館のような娯楽施設をつくることも、地域に人を呼び込むきっかけに

落ち着いた生活の街というイメージも根強い

賑やかなエリアは駅周辺に集中させて、高齢者や小学生、小さい子どもが静かに安心して暮らせるエリアとしっかり区分することが必要である

若者と高齢者、どちらも快適に過ごせるバランスの取れた街にしていくことが理想

● 高架下の活用 千歳烏山を変える大きなチャンス!

カフェや古着屋、アートギャラリー、飲食店などが並べば、自然と若者が集まってくる日常の中に、ちょっとワクワクするような空間をつくることで、街の魅力がぐっと高まるのではないかな

● 住まいと仕事の融合

住む場所と働く場所がもっと近くなるような、
 住まいと仕事の融合も重要

- ・コンパクトでデザイン性の高い賃貸住宅やシェアハウスを増やすことで、若い世代が定住しやすくなる
- ・スタートアップ向けのオフィスやシェアオフィスも整備すれば、千歳烏山を“働く街”としても活性化できる

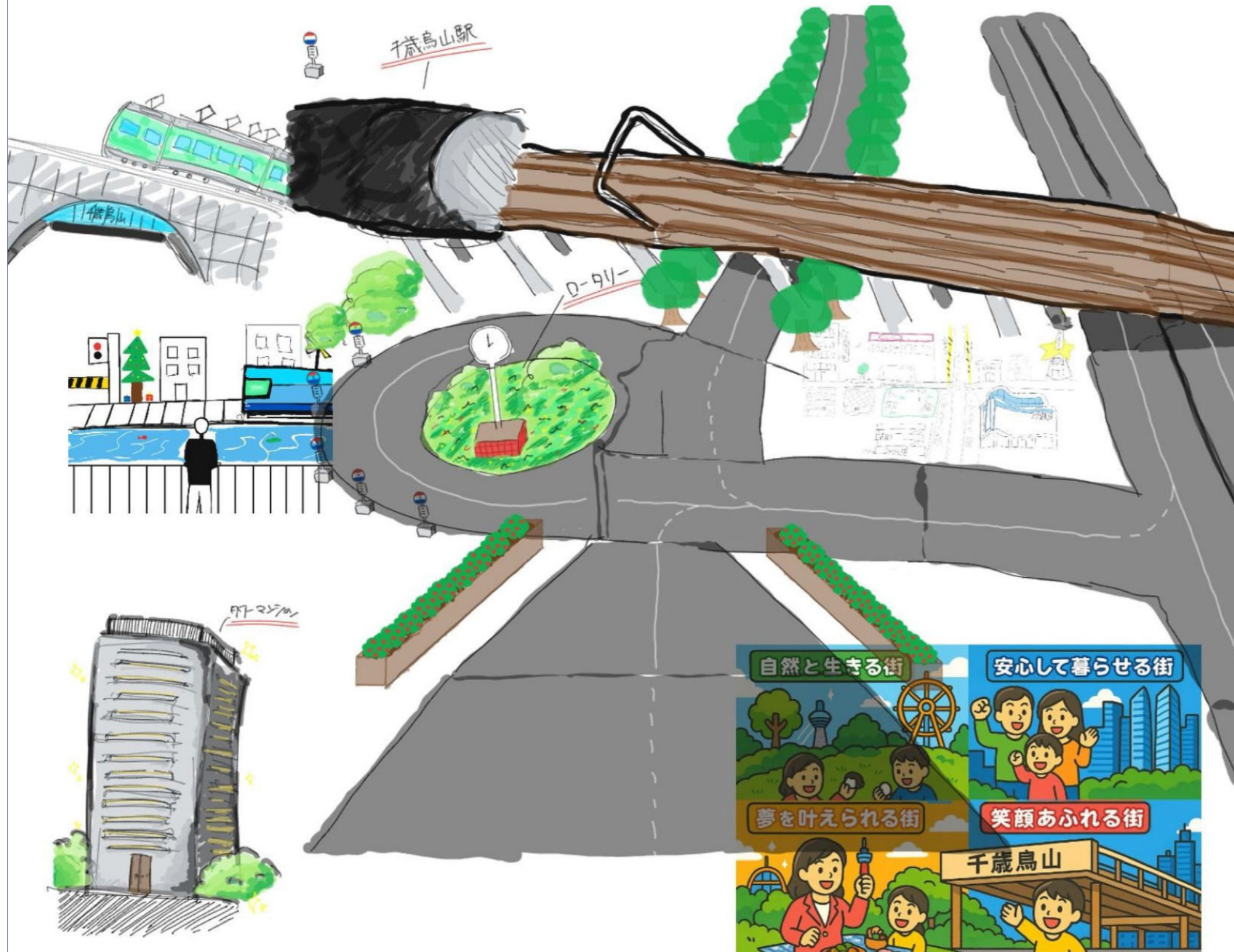
● サステナブルな視点

歩行者や自転車が優先される通り、緑地の整備、再生可能エネルギーの活用など、環境に優しい取り組みを通じて、誰にとっても心地よい都市空間を実現する

そして何より、地域の人たちと若者が一緒になって「自分たちの街をつくっていく」
 ——そんな参加型のまちづくりが、未来の千歳烏山を支える力になる

子ども若者フォーラムを通して、千歳烏山が、「住む」「遊ぶ」「働く」がバランスよく融合した、若者にも高齢者にも愛される、魅力的な街に進化することを願っている

夢と希望があふれて、みんなで笑顔で暮らせる街



みんなが安心して暮らせる街

少子高齢化や環境問題をテクノロジーの力で解決し、
みんなが安心して毎日が過ごせる街に

- ・ロボットやAIが家事や見守りをし、高齢者や子どもも安心して暮らせる
- ・暗い道やひとけがない道をなくす
- ・みんながすぐに助け合える仕組みづくり

自然と共に生きる街

- ・緑が多く、様々な木や花が咲き誇る公園や遊歩道
- ・友達と遊んだり、家族と散歩したりできる緑豊かな場所
- ・小中学生が走り回れる、ボールで遊べる場所を地域につくる
- ・環境にやさしいエコなエネルギーを使うことで、地球の未来も守る

みんなが夢をかなえられる街 みんなの夢が応援される街に

- ・学校の先生だけではなく、地域の人たちの勉強や活動のサポートにより
誰でも自分の得意なこと好きなことを見つけられる環境
- ・AIや最新の道具を使い、自分のペースで学習が出来る環境
- ・将来千歳鳥山の役に立ち、困っている人を助ける、
そのための力をつけていきたい
- ・世界中から色々な人が来て、一緒に暮らす中で、いろんな文化や言葉
を学び、多様な人たちが助け合い、楽しく生活できる千歳鳥山に

笑顔あふれる街

便利な生活や豊かな自然、みんなが助け合う心により、
毎日が楽しく幸せに感じられる街に
そんな街に住んで、友達や家族と一緒に未来を作っていきたい

一人ひとりが夢をもち、希望を持って行動すれば、
きっと素晴らしい千歳鳥山になっていく
今日から少しずつ未来のためにできることを始めていきたい



ちとからのこれから Title: 遊べる場所のあるレトロな烏山:2034年

※画像はAI生成のため少しイメージと異なる部分があります。

1 地域の人たちが自然と集まれる銭湯 昭和の銭湯文化を現代の形でよみがえらせる



忙しい日々の中で
ほっとできる場所を

昔ながらの良さを生かしながら、
新しい交流が生まれる街に！



昔ながらの暖かさと今の暮らしが調和するまち

2 自然とつながる心が落ち着くくつろぎ空間

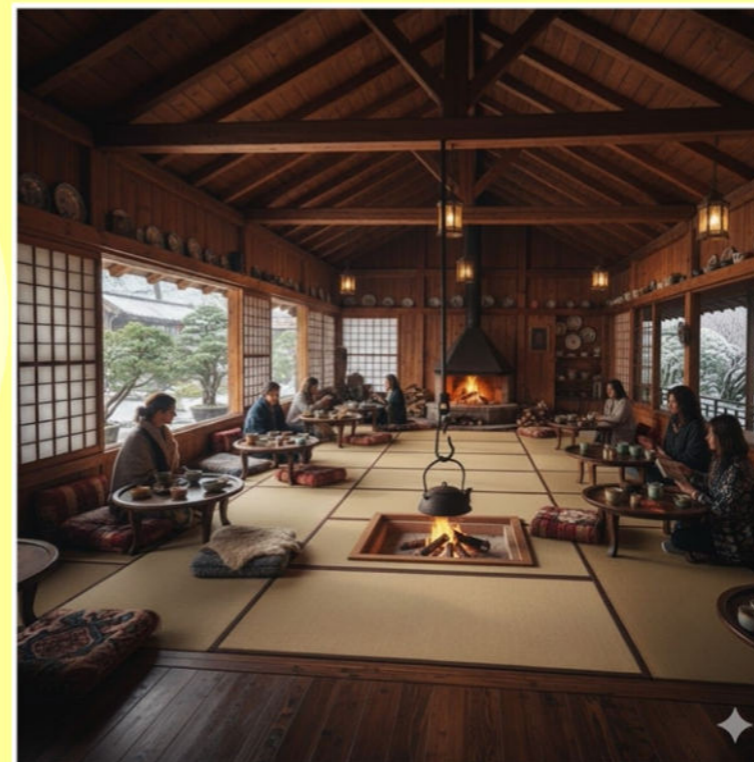
囲炉裏を囲み、お茶を飲んだり、会話をしたり、ほんの少し歴史を感じつつ、
今の暮らしの中でゆったり過ごせる空間
自然光が差し込み、時間の流れも緩やかに
空間の一部を地域の方や中高生が運営し、地域の人々と交流を促進する
若い世代が関わることで、地域全体をより暖かく活気がある街に



私は夏の研修でタイ北部のヒンラート
ナイ村という100人程度の小さな村に訪れ
ました。自然に囲まれ、時計もなく、
ゆったりとした時間が流れる村です。

特に印象的だったのが、ホームステイ
先で、食後に囲炉裏のお湯を沸かして、
竹のコップでお茶を飲む時間です。とて
も心が休まり、温かさや暮らしの積み重
なりを感じました。

この体験から、烏山にも、誰もが自然
と集まり、心が休まり、人々にとって、
第二の空間を作りたいと思いました。



3 昭和の雰囲気漂う 暖かい交流の場「駄菓子屋」

世代間を超えた温かい交流の場
子どもは楽しむ、大人は懐かしみ、
中高生は気軽に立ち寄れる世代を超えた交流の場

子どもに
お小遣いで駄菓子を選ぶ
掛け替えのない体験を！



ちとからのこれから Title: 苔と交流が自然にある2034の鳥山

※画像はAI生成のため少しイメージと異なる部分があります。
パースは建築家 石上純也 風のデザインを生成したものです。

■ 千歳鳥山の課題点

- ・千歳鳥山は自然が少ない
- ・学生が気軽に勉強する場所が少ない
- ・子供や地域の方々が自由に交流する場所が少ない



● 苔の建築



緑は環境に良いが、無駄なスペースや蚊を発生させる原因となる
(レスパイア社の) 苔の壁を建物につけると、無駄なスペースも蚊も発生させない、CO2を吸収し、氷点下から100℃まで耐えられる。夏の壁の表面温度を最大7℃下げ、冬は室内の温度を保つ、設置と管理も簡単である
これにより、地球環境の向上に貢献できる

参考文献
Images made using Gemini 2.5 Flash
Ishigami, J. (2018). Jiyū na kenchiku [Free Architecture]. LIXIL Publishing.
世田谷区 (2025)
<https://www.city.setagaya.lg.jp/03683/26896.html>
浄化する壁: 都市の苔に対するレスパイアの難け
<https://ja.futuroprossimo.it/2024/09/muri-che-purificano-la-scommessa-di-respyre-sul-muro-chio-urbano/>
susterra_net(Instagram)
<https://www.instagram.com/reel/DPB1pZbkcl/?igsh=MXB6dmQz2V6czBiZg==>

○ 施設について



● 自習室

自習できる場所が少ない、鳥山区民センターの図書館は利用者が多いため机や椅子は埋まってしまう

立ちながら勉強できるハイデスクは、集中力をあげる。利用目的が違った人や、極端に長い滞在を防ぐ
また、窓から緑が見えリフレッシュできる



● 食を通じた交流

世界の人達がラーメンを食べながら交流できるラーメンという日本の文化を通じて、外国人との会話や文化などを教え合う交流の場とする



● 広場・公園

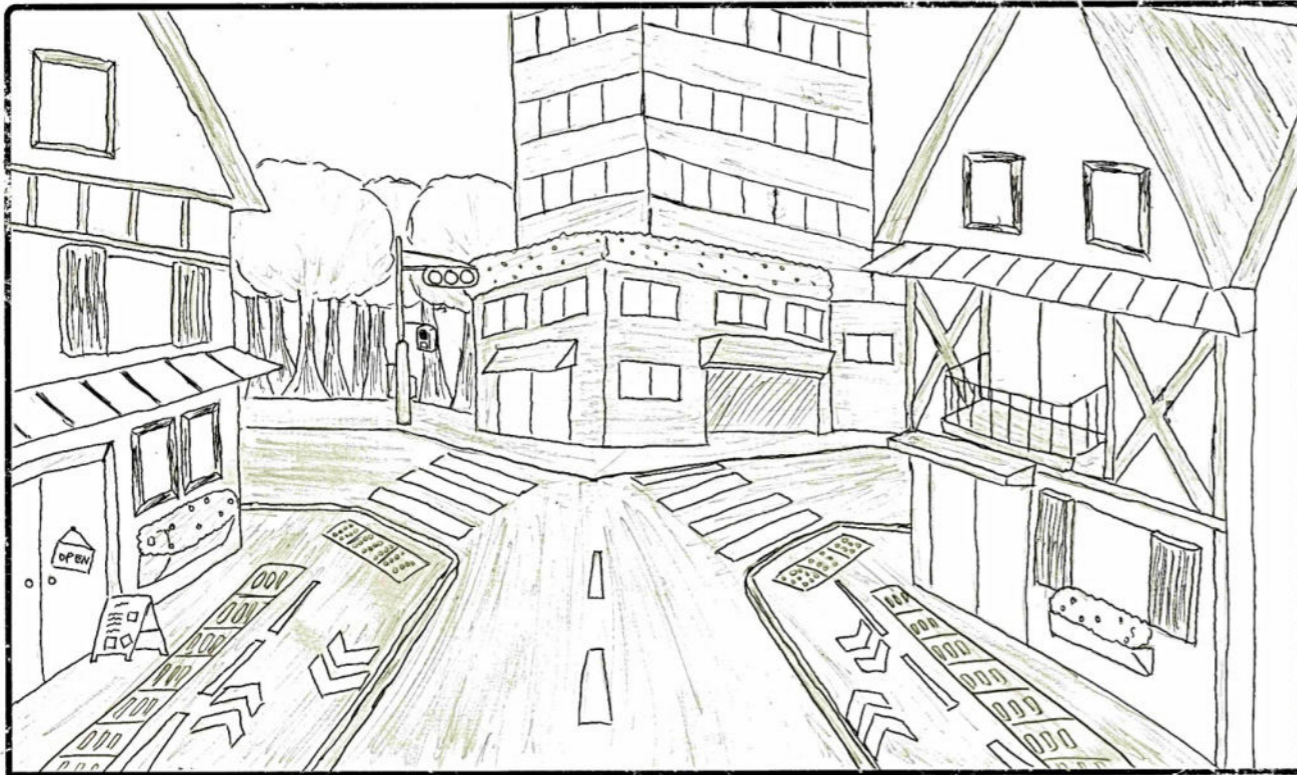
区民センター前広場は子供の遊び場が少ない、地面がコンクリートでヒートアイランド現象など環境問題に繋がる、イベントがない時間帯に活用できていない

建物の屋上に芝生エリア・遊具エリア・地域の人と植物を育てる庭園エリアをつくり、人が集まり、自然と交流が生まれる公園をつくる
芝生は、ゆったり休憩できる場所として、また現在の広場の様にイベントを芝生で行うことで、地域の交流の場として絶えずスペースを活用し、人々の憩いの場を創出する



ちとからのこれから

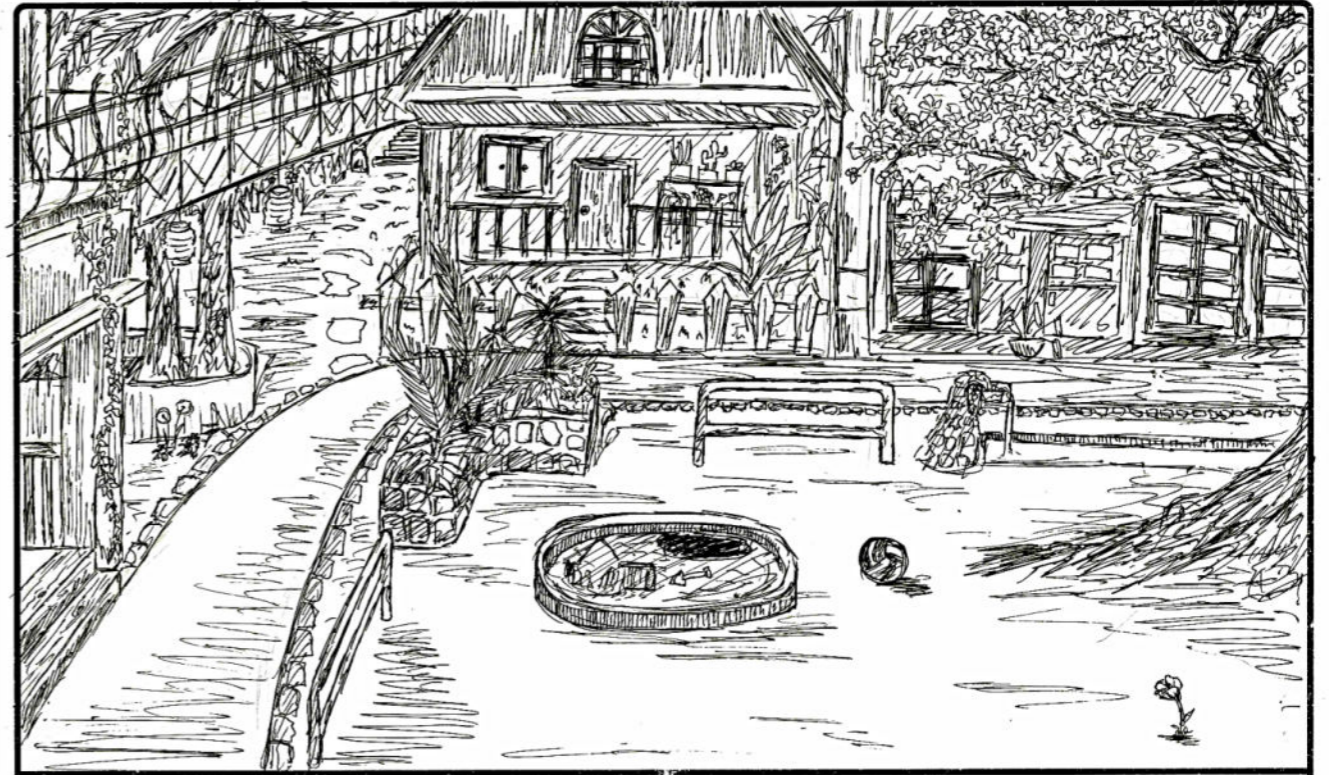
Title: バランスシティ



バス、自転車、車がスムーズに走る町、建物と自然がバランスよく配置された町にしたいと思ってるから
(点字ブロック、自転車専用レーン、街路樹、など)

ちとからのこれから

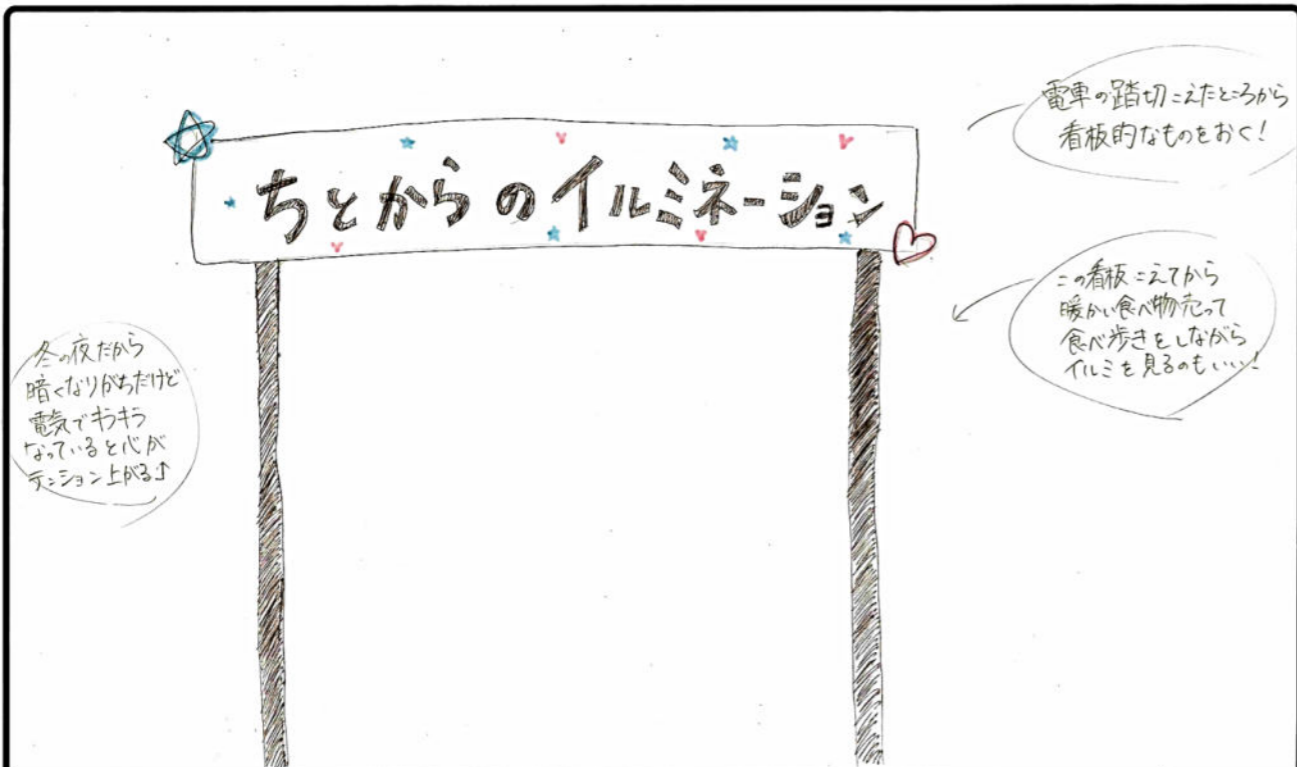
Title: ニゴロニゴロっほいまち



植物の多い街。(葉っぱやめ)
大きな木のある公園をたくさん。

ちとからのこれから

Title: 冬の夜



電車の踏切=2Fと3Fから
看板的なものをおく!

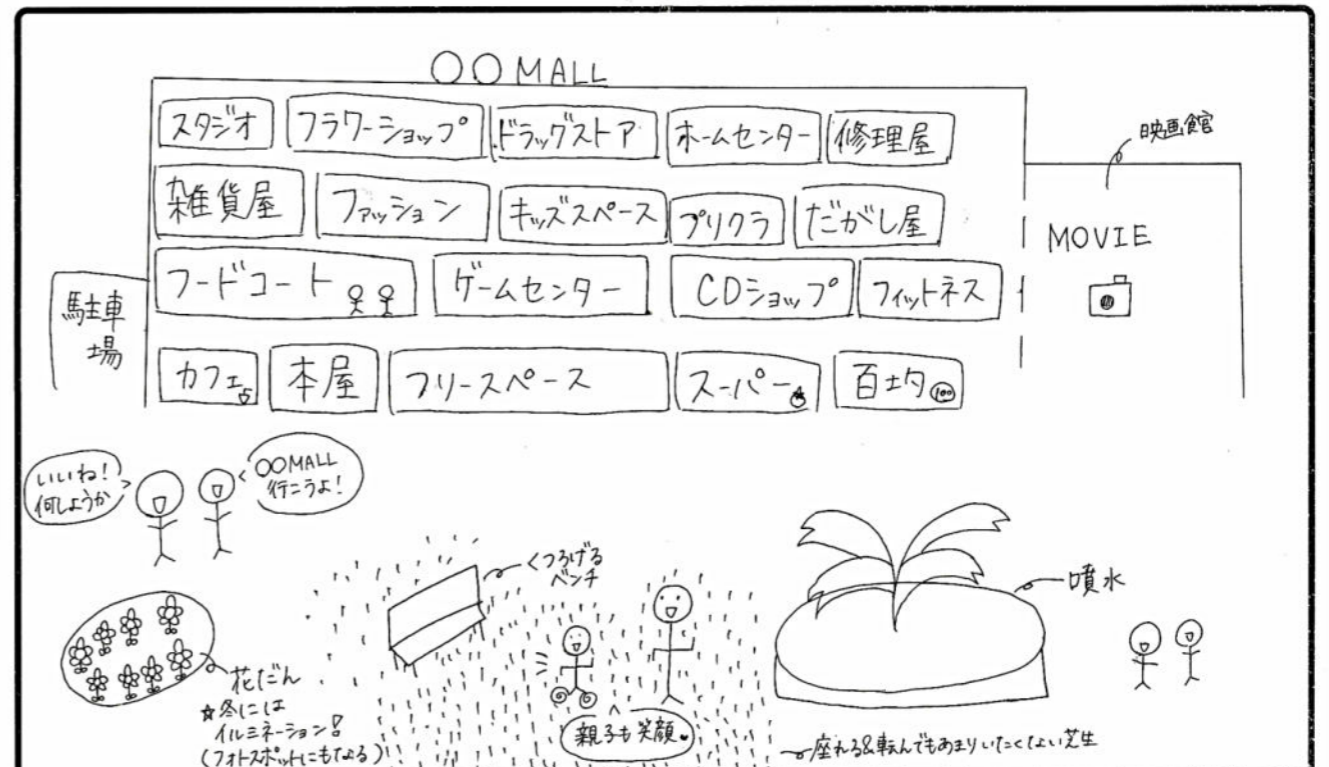
この看板=2Fから
暖かい食べ物売って
食べ歩きをしながら
イルミを見るのもいい!

冬の夜から
暗くなるだけだと
電気がおもしろ
な、いると代が
ション上がる!

食べ歩き、高校生が好きなカフェ、JKはキラキラしたものが大好き! イルミはかえりたくなる。
↳ 宣伝効果抜群

ちとからのこれから

Title: 皆が集う明るいショッピングモール



いいね!
何しようか?

O O MALL
行こうよ!

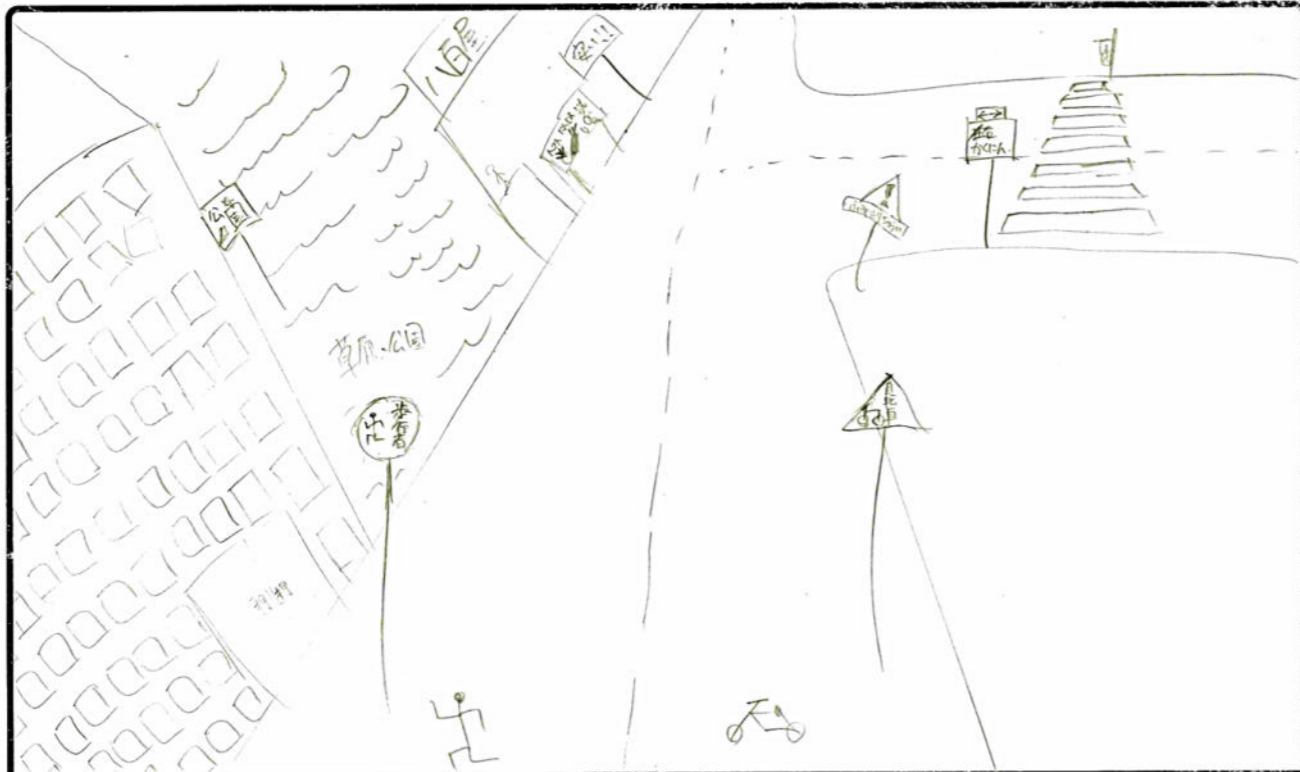
花(=ん)
★冬には
イルミネーションも
(フオストライトにもなる)!

親子が笑顔。
→座れる回転木马もイルミにしたい

様々な年代の人々が、いっしょに言われても安心できる、ショッピングモール。特定の年代の好みに偏らず、誰一人楽しめない人をつくらない。
明るい場所にしたい。(カフェ・フィットネス・本屋・ゲームセンター等)

ちとからのこれから

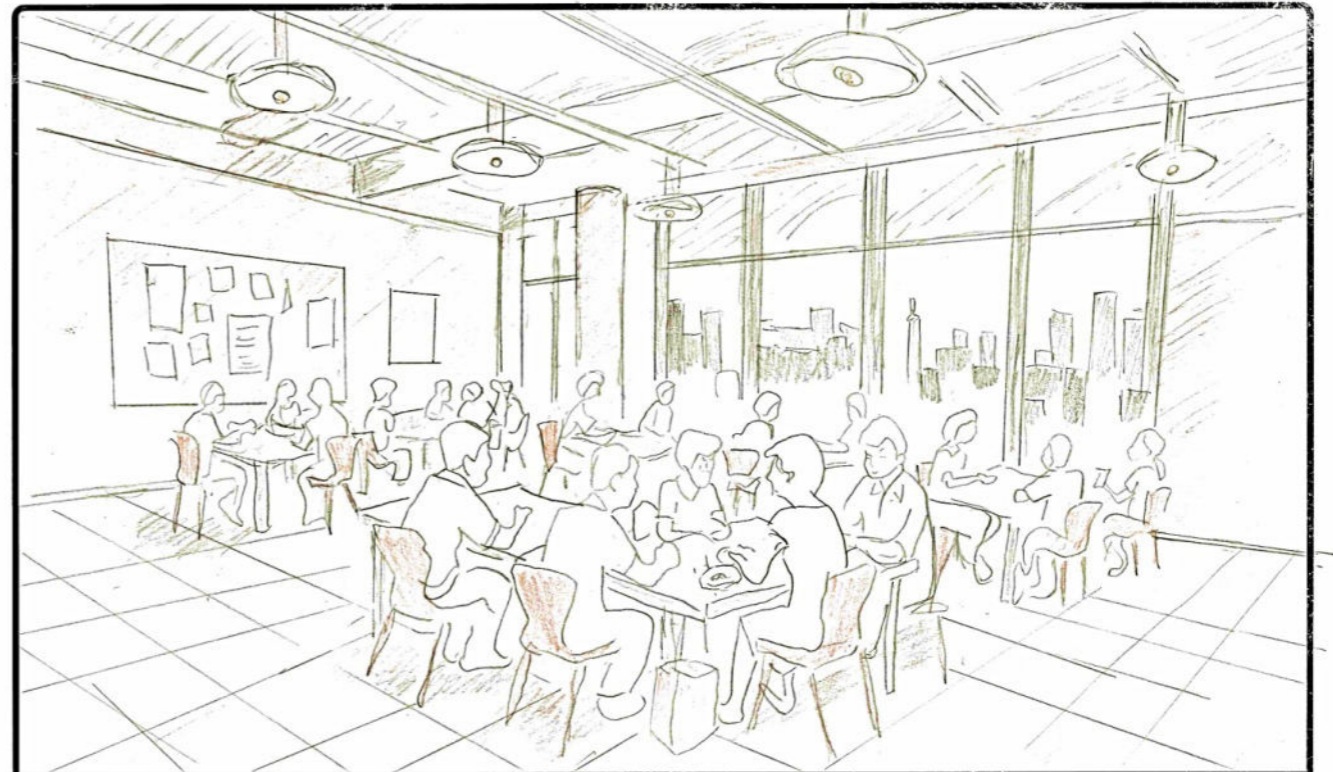
Title: 標識で認識



道路や店の前にたくさん標識を置くことで色とりどり、また、便利なまちをつくらせたいです。

ちとからのこれから

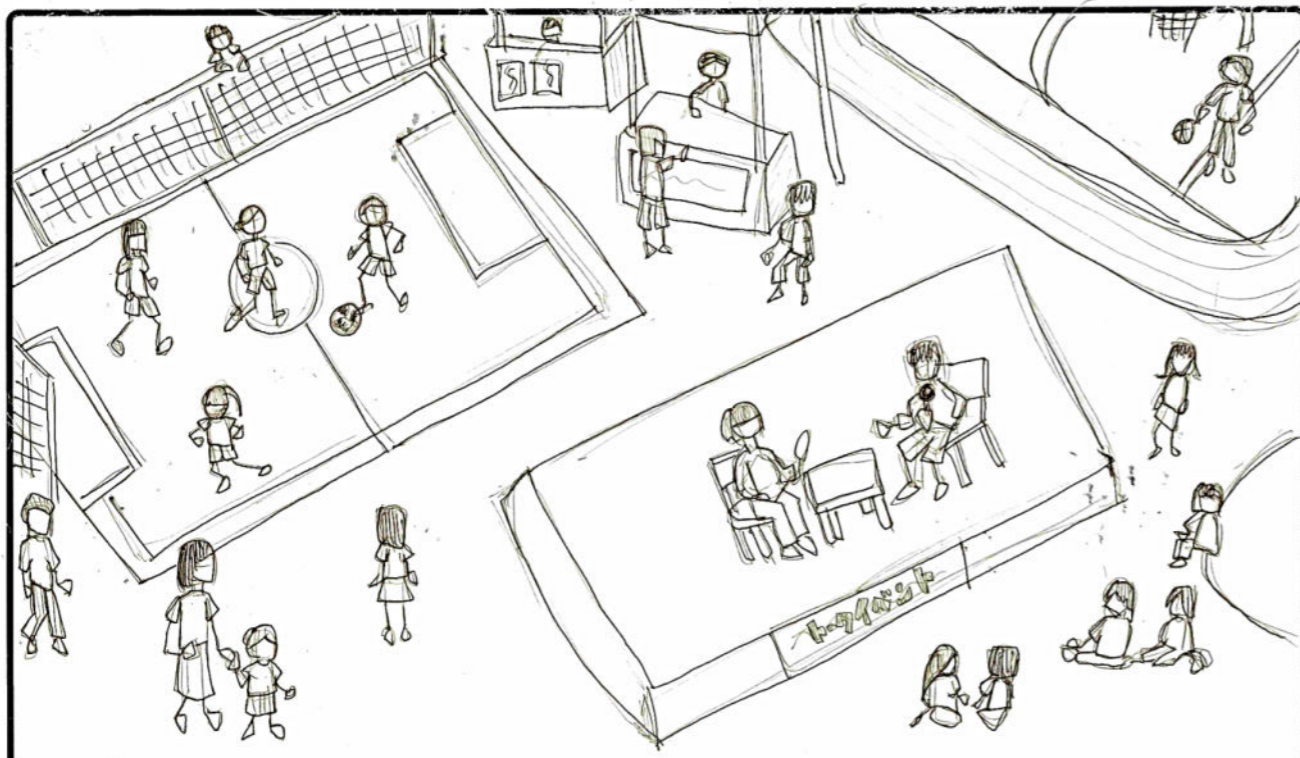
Title: 飲食ができるフリースペース



府中駅 ル・シー・ニューのビル5階にあるフリースペースを参考にしました。このフリースペースは、飲食が可能で私の中学生のとき、友達とお菓子を食べながら勉強会をし、たくさん人の思い出があります。鳥山にもあったら、お洒落なカフェや駅を利用する方々が自由に活用できるいいスペースになると思います。

ちとからのこれから

Title: スペースとつながり



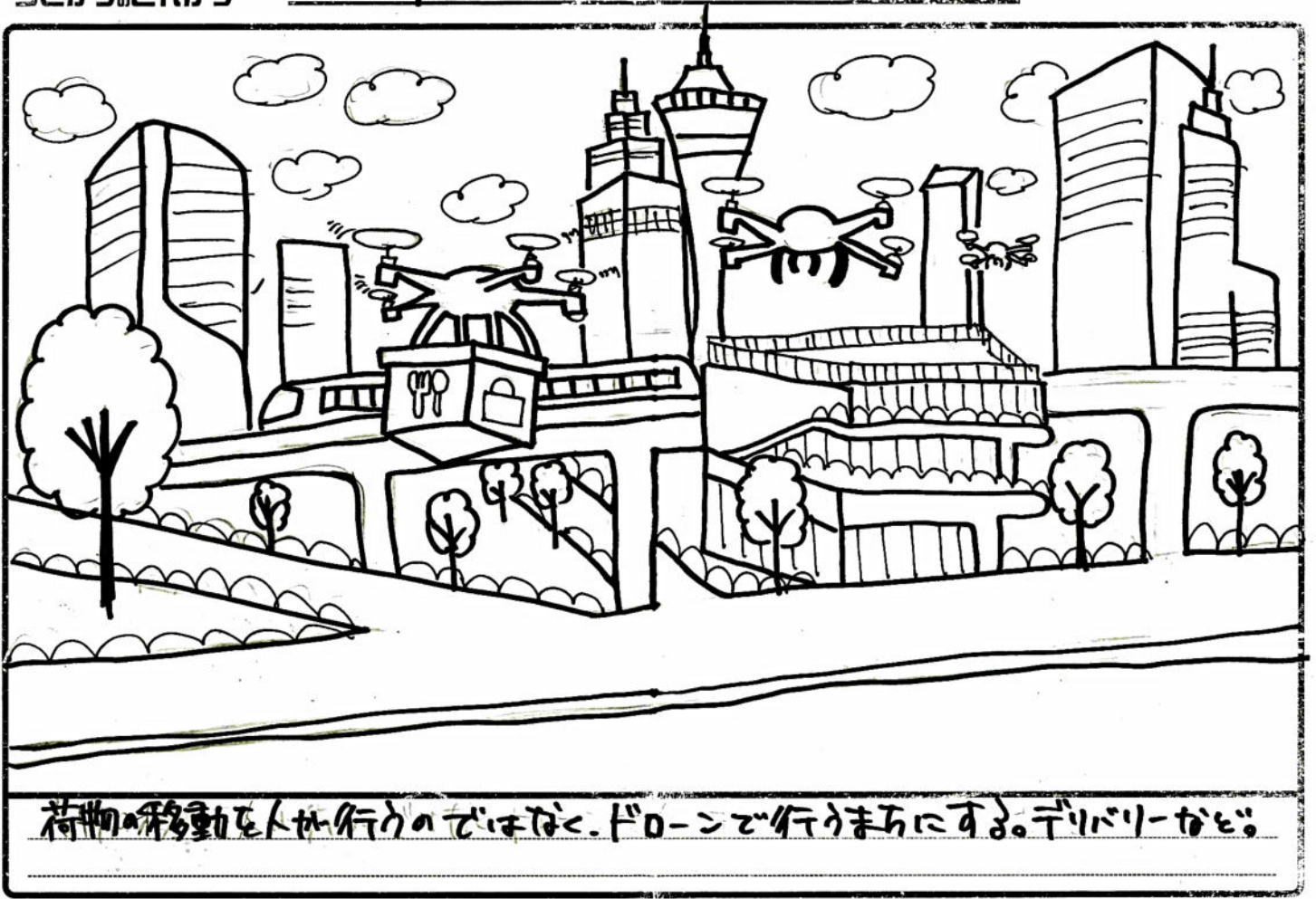
このスペースが中心になるので、そことつながり、イベントを開いたり、スペースが使える公園があったらいいと思います。また、お祭りやイベントの場としても使えます。

ちとからのこれから

Title: 中高生向け児童館



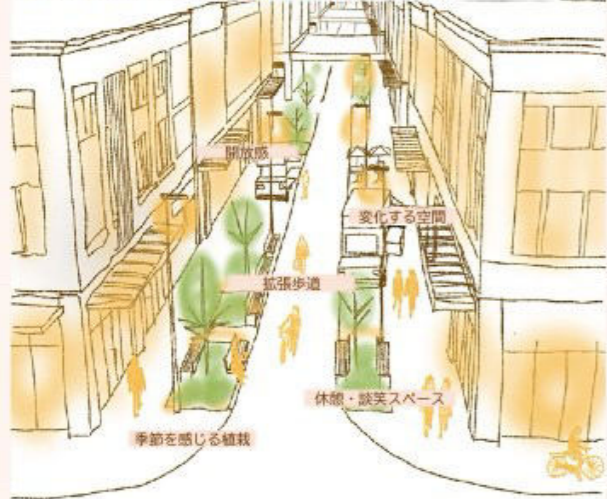
中高生向けの色々な設備がそろった建物です。二階が夏と雨の日が暑く、日陰で便利で、
① 放課後や休日 ② 学生 ③ 建物内で ④ 音楽・運動・勉強・食事・談笑・読書 etc...



荷物の移動を人が行くのではなく、ドローンで行うようにする。デリバリーなど。

千歳烏山商店街—高架化後の街における賑わい空間とスムーズな回遊性の創出

誰もが安心して過ごせる「賑わいの小道」の創出



商店街設置場所決定の根拠と現在の通りの特徴



自転車の回遊性について



●設計コンセプト●

- ▶季節を感じる植栽
新設の商店街として通常の商店街とあまり見られない植え込みや芝生を充実させる。空間の変化を楽しむことができる。
- ▶休憩・談笑スペース
ベンチの増設によって学生や高齢者が一休みできるような場所
- ▶自転車と歩行者が共存し、安全でスムーズな動線を生む拡張歩道
無電柱化で幅広い歩道とし、景観と歩きやすさの確保
- ▶飽きの来ない変化する空間
週末のイベントなど地域の居場所作りにつながる取り組み
- ▶開放的で風通しのよい歩道
全体を囲むアーケードは設置せず、開放感を重視した空間を作る。

夜道も明るく
街灯とフットライトを活用、商店街の店が閉まった後でも通り道として選ばれるような明るい道

▶多様な活動を育むオープンスペースの整備
一階をカフェや小売店、二階には地域の交流の場となるような場所を作る。上階の2階のイメージとしては、コワーキングスペース、小規模の図書館（自習スペースも兼ねる）、キッチン付きのレンタルスペースとしている。地域住民の多様な居場所になることを期待する。

千歳烏山区民会館で緑の憩いを

背景

1. 駅周辺の緑地が少ない

駅周辺に緑地が少ないことが挙げられる。駅周辺は商店街が広がり、公園がない。近くにあるみどりは、住宅敷地内か甲州街道の街路樹である。公園は住宅街に点在しているため、買い物帰りに自然を感じられる場所や、駅周辺に自然を感じられる場が少ない。

さらに、京王線の高架化、駅南側の駅前広場事業が計画されているが、区民会館のある北側には変わらずみどりが少ないままであると予想される。

2. 学生の居場所がない

千歳烏山駅を最寄り駅とする高校はいくつもあるにも関わらず、駅周辺に高校生の居場所がないことも問題である。

おすすめの過ごし方

芝生広場に寝転がって、ゴロゴロタイム

買い物帰りに子どもと遊ぶ

商店街で買った食べ物ピクニック



屋上緑地の特徴

芝生広場
南側に芝生広場を設置したため、日当たりが良く、大人も子どもも寝転んだりまったりできる。

桜並木
駅周辺で桜を楽しめる場所が少ないこともあり、満開の時期に目玉となるような場所である。夏は、いい木陰になる。

ウッドデッキ
テーブルや椅子、ソファを設置し、人々が好きなように使える場である。パーゴラもあるため、日差しが強い時期でも利用しやすい。

ビオトープ
周辺に水辺がないため、水生生物の観察や水を眺めることでリラックス効果を得られる。ビオトープを見ながら座れるように、パーゴラやベンチを設置し、保護者も高齢者のゆったりと過ごせる空間とした。



芝生広場で子どもたちに絵本の読み聞かせ会

4階の図書館で本を借りて、屋上で読書

放課後にウッドデッキでおしゃべりと勉強会



子連れに選ばれるまち千歳烏山を目指して—既存のまちづくり計画への+a—

提案の意図

まち全体として「子育て世代が買い物をしやすい」空間を創出することで、千歳烏山駅周辺居住者のみならず、異なる地域に居住する人々が買い物に訪れるまちを目指す。

前提として

世田谷区によって既に構想されている「再開発事業を活用したまちづくりの基本的な考え方」をベースとし、子連れが回遊しやすいまちにするための工夫を提案する。

○安心・楽しく歩けるまちなか



手軽に休憩のとれるスポットを街中に点在させる。特に、屋根も自然もあるパーゴラは快適だけでなく、まちの雰囲気も良くするだろう。また、広くて傾斜のない歩道は、ベビーカーを併せて移動する人が安心して歩けるために必要不可欠な要素である。現在、千歳烏山公民館前に設置されているような、ちょっとした遊具をまちなかに配置することで、子供がまちを歩くモチベーションとなるだろう。

○長時間滞在できる施設



西友前通りの北にまちなか休憩所を設置する。

- 千歳烏山駅北口バス停に近く、人の流れが多い
- 駅前広場の大规模商業施設や駅から離れており、誰でも利用できる清潔なお手洗い、授乳室やおむつ替えスペースといった設備への需要が高い
- 周りにはテイクアウトできる飲食店が数多く立地
- 飲食可能な休憩スペースを設けることで、家族それぞれが異なる内容の食事を一緒にとることができる
- ▶周辺飲食店の利益、駅前滞在時間の延び

まちなか休憩所外観イメージ
開放的で入りやすい雰囲気（ガラスや2階のテラス）
西友前通り側にはテラス席を設置、まちなか一続きの空間にする

周囲のテイクアウト可能な飲食店を赤丸で示している
およそ徒歩4分圏内に20店舗以上が集まっている

○子連れ向け機能の集積した施設

辰巳、吉城、堀の研究 (2016) によると、「子連れ家族が休日の外出時に重視していることは子供のための観察環境があることであり、その充実度合いも重要視」されている。



外観イメージ
芝生広場から室内が見えるようにする。広場と店舗入り口の間にパーゴラを設置し、日差しを避けながら遊べるようにする。

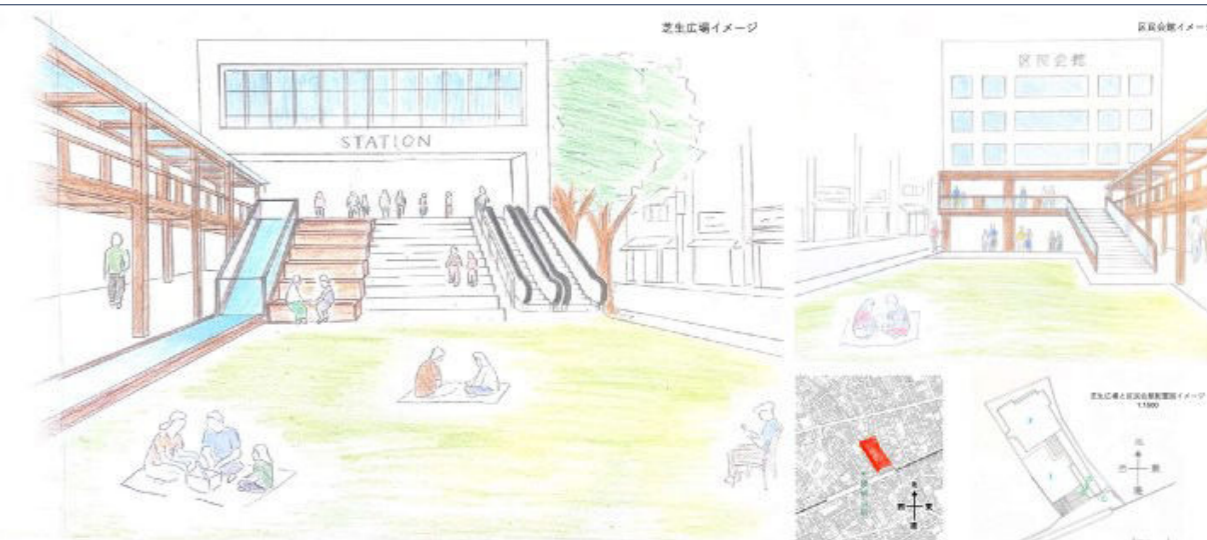
カフェテリアイメージ
100本のスプーンHPより

子供一時預かり施設イメージ
IKEA スモアランド

子供の観察施設かつ預け先として機能手軽に預けられる仕組みにする

参考文献
辰巳 浩、吉城 秀治、堀 孝代子 (2016) 『都心での回遊行動の比較による子連れ家族の特性把握—福岡市天神地区を対象として—』土土学会論文集 72巻第5号p.1,435-1,445

人々が集まる街に 烏山区民会館と広場の活用



現状と課題

1. 密集している
千歳烏山駅周辺には商店が多くあるものの、道が狭く建物が密集している。地域住民の多くは買い物が目点となってしまい、食べ物を買ってそこで食べたり、休憩場所として過ごしたりするという場所ではなくてはならない。

2. 目的地になりにくい
千歳烏山駅周辺に住んでいる人にとって利便性の高い空間である一方で、住民以外の人には訪れにくい場所である。また地域住民も広い休憩場所がないことで他の地域に移動してしまう場合が多い。



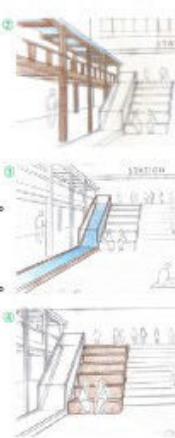
解決案と効果

1. 芝生広場
駅前芝生広場を作ることで密集した地域に広い空間ができ、多くの人が過ごせる場所を整備することができる。また駅付近には自然や公園が少ないため地域住民の憩いの場としての利用が想定される。

2. 区民会館と商業施設
現在区民会館のある場所に、区民会館とカフェ等の商業施設が一体となった施設を建設し、地域住民も利用しやすい外部の人も訪れたいような空間を作る。この場所が多くなる人にとって目的地となる場所にする。

Point

- ① 駅**
駅と芝生広場を繋ぎ駅から直接行けるようにすることでアクセスをやすくする。
- ② 橋**
駅と商業施設を橋でつなぐ。これによって駅から下に下がらず、雨の日でも濡れずに商業施設や区民会館に向かうことができる。
- ③ 水場**
視覚的にみただけでなく水遊びができる空間として開放し、自由に遊べるようにする。これによって子育て世代も気軽に利用できる。
- ④ 階段ベンチ**
階段の一部をベンチのような作りにし、カフェや商店街で買った食べ物を食べたり、気軽に話したりできる空間にする。



新たな空間を利用して、高校生が滞在することができる千歳烏山へ

背景

高校生は、家族と話すことも減り、近所の友人とも疎遠になりやすい。最近では放課後に教室を施設してしまうことから、放課後などに過ごす場所が見つかりにくい。また、お金が限られているため、喫茶店に入ったり、都心へ行ったりするのも頻りにできない。したがって、高校生は家を離れた場所を探すのに最も苦労する世代だと考える。千歳烏山駅周辺にある高校の生徒も「近くに遊ぶ場所がない」と話し、世田谷区においてもこの問題は存在する。

提案の趣旨

千歳烏山に、高校生が気軽に、かつ快適に過ごせる空間を提供する。

- お金をかけずに、放課後や休日を通わせる。
 - 高校生が遠慮なく、周りを気にせずのびのび利用できる。
 - 一人でも複数人でも、さまざまな場面で過ごすことができる。
 - 滞在を通して、より楽しく、充実した高校生活となるようにする。
- ⇒ 高校生が、各自の創意工夫で「まちの空間を積極的に使えるような仕掛けを用意する。」

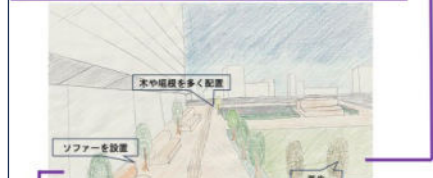
提案1 高校生が自由自在に滞在できる空間：半個室ラウンジ



- 使用例
- 1人か数人でテスト勉強
 - 雨の日に部活のミーティング

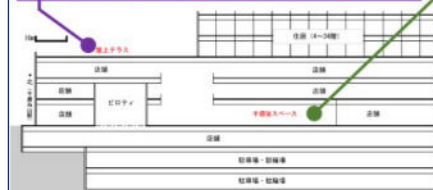
駅の南側を再開発し、新たに商業施設をつくる。その1階には半個室のラウンジを設け、高校生は無料とする。仕切りがあることで周囲の視線や音を気にせずに通わせる。

提案2 高校生がのんびりと滞在できる空間：テラスの工夫



- 使用例
- のんびり休憩、読書、ゲームをする
 - 駅北側の公園とは異なる、落ち着いた雰囲気が特長！

商業施設の4階部分にはだれでも入れるテラスを設ける。心にゆとりが広がり、リラックスできる空間とする。



現状と今後の予測(模型参照)

- 周辺の道路は、周辺に住む/近くの高校へ通う高校生の通学路となっている。
- 駅北側の広場を除き、雑居ビルや駐車場で空間的ゆとりがなく、飲食店などに入らない限り、長時間の滞在が難しい。
- 駅の高架化と駅南側(写真の位置)に高層マンション付きの商業施設を建設することが計画されている。



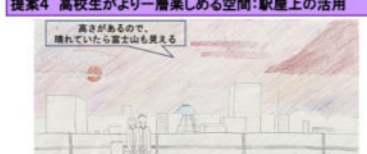
提案3 高校生が気軽に・快適に立ち寄れる空間：高架下



- 使用例
- 部活帰りにコンビニで食べ物を買い、座って食べる

アクセスの良さと快適さをもつ高架下が新たに生まれる。15分程度の利用を想定し、広い空間に豊富なベンチを設置。

提案4 高校生がより一層楽しめる空間：駅屋上の活用



- 使用例
- 大切な人と2人で歩く

高架化した駅舎の屋上を活用して、展望ウッドデッキを設置する。高校生がSNSに投稿したくなるエモーショナルな雰囲気を出す。

左：駅南側の再開発で建設予定の商業施設の断面図

- 区の計画に基づいて、地上3階以下を商業エリアとする。
- 吹き抜けを作り、部活動の発表会などに活用できるようにする。
- 提案1の半個室ラウンジは、高校生に気軽に立ち寄ってもらえるように、出入りまでの時間が短い1階に設置する。
- このほか、1階にも一時利用の駐車場を用意する。



1. CONCEPT

千歳烏山駅周辺で学校帰り、会社帰りの人々がふと寄れる場所はあるだろうか。家に帰るただの通り道になってしまっていないだろうか。帰り道に立ち寄れる場所を提供することによって人々が繋がる場所を新たに作られる予定の高架下に表現した。

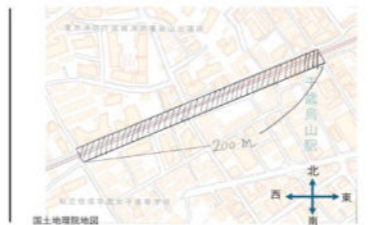
3. PROBLEM



現在の千歳烏山では北口商店街と南口商店街の間に大きな売り上げ差がある(図を参照)。この問題を解決したい。

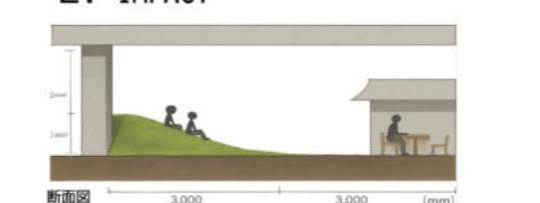
4. PLACE

この構想の場所は千歳烏山駅の駅から南西の方角に200m伸ばした商店街を想定している。南側に新たに高層ビルを作ることから多くの住人が住むことになる。通勤や通学で多くの人々が通ることとなり、行きや帰りに少し寄れる場所を提供できると思う。南北の商店街の売り上げの差も是正できると考える。



帰りに寄れる町へ

2. IMPACT



千歳烏山駅周辺地域は建物が密集していて少人数でもお店に入ったり、座ったりするのが難しい。そこで新たに作られる高架下に商店街と少し傾斜のある人工の芝生のスペースを作ることで帰りに寄れる道を目指す。

2つの駅を結ぶ 快適な歩行空間づくり



- 現状
- 芦花公園駅側に居住する人も、特急停車駅である千歳烏山駅を利用する人が多い
 - 徒歩8分程度の道のり
 - 道幅が狭く木々も少ない。夜は暗い雰囲気
 - 戸建て住宅街の単調な景色が広がる
- コンセプト
- 駅から公園、住宅地へとつながる “日常を心地よく歩ける道”の創出
- 2つの駅を結ぶ道のりの中にある駅前広場、公園に“節”を設け、それらをプロムナードとして連続させることで、暮らしに寄り添った歩行空間を目指す。また、住宅とまちとの境界を開くことで、生活風景が街並みにじみ出るような、やわらかな空間のあり方を提案する。

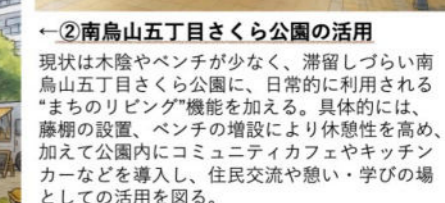
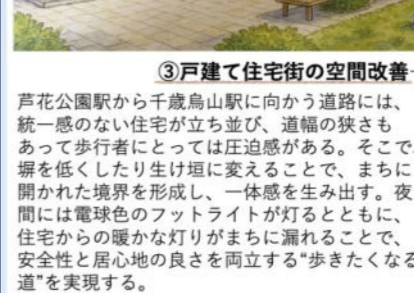
①千歳烏山駅南側の整備→

千歳烏山駅南口周辺は、高架化に伴う再開発計画が進んでおり、高層住宅や商業施設、南広場の整備が予定されている。本提案では、この都市計画と連続性をもたせた駅前空間をデザインする。駅前から続くプロムナードの入り口として、植栽や舗装の素材に統一感を持たせ、回遊性と視認性を高めるとともに、駅利用者と地域住民の双方にとって心地よい玄関口となる空間を構築する。



←②南烏山五丁目さくら公園の活用

現状は木陰やベンチが少なく、滞留しづらい南烏山五丁目さくら公園に、日常的に利用される“まちのリビング”機能を加える。具体的には、藤棚の設置、ベンチの増設により休憩性を高め、加えて公園内にコミュニティカフェやキッチンカーなどを導入し、住民交流や憩い・学びの場としての活用を図る。



③戸建て住宅街の空間改善→

芦花公園駅から千歳烏山駅に向かう道路には、統一感のない住宅が立ち並び、道幅の狭さもあって歩行者にとっては圧迫感がある。そこで、掘を低くしたり生け垣に変えることで、まちに開かれた境界を形成し、一体感を生み出す。夜間には電球色のフットライトが灯るとともに、住宅からの暖かな灯りがまちに漏れることで、安全性と居心地の良さを両立する“歩きたくる道”を実現する。

